【モコ末広保育園】

●2021.11.26 ふりかえり（エコエデュスタッフ／遠藤先生知里先生）

全員：お疲れ様でした。

スタッフ①：

今日は、「五感を使いながら草花遊びをしたり、生き物と出会ったり、何かを発見したりするっていう楽しみに気づく」っていうところ、また、「家とか保育園でもそういう遊びが広がる」ような、そんなところを目的にしてやってみました。

それぞれ、子どもたちの様子と手立て、改善案とかあればお願いします。私、はじめの会で言うことを全部はしょっちゃったんですけど（笑）

スタッフ③：先生が全部フォローしてくれていたからね。

スタッフ①：はい。ありがとうございました。

スタッフ③：

やっぱりどうしても外れちゃって、走っていっちゃう子もいるんだけど、そこは先生がちゃんと見ててくれて、僕らも一応、どこまで走るのかなって見てるけどね、社長さんの先生も気にしててくれたんで、そういうとこは割と安心してましたね。

スタッフ②：

はい。前回の反省を十分に生かして、今日はですね、子どもたちと一緒に遊ぶというか、もうこの広い野原を駆け巡るといったかたちで、広い大地を踏みしめると言ったらおかしいかもしれないけど。挨拶もそこそこに、まずともかく上のほうまで行ってみようって、ちょっと小高い所から「どう？　降りられるかな？」って、タカタカっと降りようって言って。

そのあと「じゃあ、みんな、何かになろう」って言ったら、子どもたちが「飛行機になりたい」って言って、「じゃあ、飛行機で、みんな、行くよ！」と言って。そしたら、「その次、じゃあ、何で行きたい？」なんて言ったら、そしたら今度は、「ヘリコプターで行きたい」と言って、くるくるなってたら、ある女の子が、「もう目が回

っちゃったな」とか言って。またもう１つ、「じゃあ、何かなろうか」と言って、なんか、「この森の中にいるものないかな」と言って、「そうだ、鳥になろう」と言って、それで鳥になって、鳥でこういう状態でパタパタしながら、結構あそこのケヤキの木の辺りまで行って、そこから「はじめの会、始めるか」となって。
そのあと、ある男の子がエノキの実を見つけて。

スタッフ②：それで、「じゃあ、もしかしたら色がつくかもしれない」と言って、紙を出してやり始めたら、なかなか色がつかない。そうしたらある子が、「この硬いのは色がつかない」と言って。それで、どんぐりもつかないとか、色がつく実を探し始めて。そしたら、「やっぱちょっと柔らかいものとか、そんなものがつく」っていうようなことで、そこで結構、意外と遊んだりして。「じゃあ、葉っぱもつくのかな」とか。結構積極的に探して、最終的には２人、途中行くとこでもずっと「この色つくかな」とかやっていて。ご飯食べたあとで、１人が冬イチゴを見つけて、「冬イチゴもつく」って、もううれしそうにここへ持ってきたんですけどね。

　あとは、落ち葉を拾ったら、どこから落ちてきたのかなって、上から落ちてきたって言って、上から落としてみて「じゃあ、みんなでやってみよう」なんて結構盛り上がって。みんなでかき集めて、先生も一緒になって、夢中になってバサバサやってました。シダの枯れたようなものを見つけて、それを恐竜の歯だとか、髪の毛だとか言ったり。桜の木の腐ったのがあって、それである子は、ぐにゃぐにゃしてるから「これは焼き芋だ」なんて言うもんで。私が、「どう、どんなやつ？」とかって触って、「熱い！」なんて言ったら、みんな「熱い、熱い」なんてごっこみたいな遊びが始まりました。

　最後は「もうじき時間だけども何で行く？」と言ったら、「飛行機で行く」と言って、そしたら、ある子は「ペンギンで行く」とか、ある子は「カラス」なんて言って、こんなパタパタパタして、ずっとガーッて下りながら来たりして。

だけどやっぱり、起伏があるから危ないもんですから、何て言ったかと言うと、「落とし穴があるから気を付けろ」って。

一同：(笑)

スタッフ②：それで、わざと私はちょっと下に「落ちちゃった。おい、助けてくれ」と言ったら、子どもが助けてくれて。私を「よいしょこいしょ」と言ってやってくれた。先生も一緒になりながらね、先に行っちゃった子に「おい、きてきて」って、「みんなが来ないとできないよ」なんて言って、みんなが集まるようにしながら帰ってきた。

あと、木の皮をめくったらムカデが出てきたりして。そしたら、ある男の子が「それ、ちょん切っちゃったら」と言って。そしたらある子が「それじゃ死んじゃうじゃん」とか言うわけ。そしたらびっくりしちゃったのはね、「家族がいるからね、会えなくなっちゃうよ」って、そういう子がいたの。

あとは最後、１人男の子が「枯れ葉また見つけに来るからね」と言って帰っていって、今日はそれでよかったのかななんて思ってね、今日の目的は。今日は私も楽しませていただきました。

スタッフ①：ありがとうございます。

スタッフ③：

はい。私のところはね、どっちかと言うと、おとなしい子が多かったかな。はじめ辺り、五感の、手の感触っていうことでね、葉っぱに触れさせたんですけども。つるつるの葉っぱとかね、ふわふわの葉っぱとか。その辺の違いを感じさせて。そしたら、もう葉っぱ、誰かがアオキにね字を書いて、だいぶ興味を引いた。

あとは、葉っぱのかたちに興味を持ちましたね。ハートの葉っぱだとか、細い葉っぱだとか、シダだとか、そんなのに興味持って、そんなものを拾いましたね。それから、細かく分裂した葉っぱなんかもね、「きれいだよ」なんて見せてくれて。それで自分でしまってましたけど。そういう、形でね、葉っぱの。

あとは冬イチゴのまだ硬いつぼみをね、無理にこう開いてね、中にまだまだ未熟な実があるでしょ。それをこう、取り出そうとして。そんなことで結構時間、この中でかなりの時間を費やしちゃいましたね。

そのあと原っぱに行って、ねこじゃらしを飛ばしたり、それとかアカマンマ、イヌタデを葉っぱの上にこうやって、ままごと遊びになって。そうこうしているうちに、ススキの枯れ葉を先生がちょっと集めていたもんだから、「ああ、これは焼きそばだね」なんて、焼きそばをやってるうちに、だんだん、だんだん、大きくなってきたものだから、今度は真ん中を開けて「これは鳥の巣だよ」なんて。「鳥の巣の卵持ってきて」と言って、今度は石を拾って、それでね、巣の卵にして。「鳥が、何がかえるかな、何の鳥かな」なんて言って、みんなで。

結構なるだけ子どもが見つけるようにしたんですけどね。自分ではあんまり言わないようにはしました。自分たちでやっぱり見つけますね。それなりに。

スタッフ①：そうですね。

スタッフ②：そうだね。ほんとに、どんどん、どんどんね、積極的に。
スタッフ③：こんなものがって思うくらいだけどね。子どもの目っていうのは違うね、やっぱりね。
スタッフ②：うん。だから、３歳児でもさ、最後までずっとこう色塗りをしたりっていうのには驚かされた。それだけやっぱり興味が、自分なりにね。

スタッフ①：ねえ、続くってすごいね。
　私のグループは割と、最初はもう、この間みたいに五感の話とかは難しいかなと思ったんだけど、話がちゃんと聞けそうだったので、五感というか、触って、見てって、ポイントをね、ちょっとだけその場でやって出かけたら、なんかすぐ子どもたちが栗のイガを見つけて。栗のイガをね、「栗、栗」って言うもんでね。そしたら先生が、「あれ？　栗どこ行っちゃったのかね」って言ったら、次々にもう腐っちゃったような栗とか、ぺちゃんこの栗とかを見つけ始めて、もう一生懸命探すんだよね。「あったあった」って言って、私がちょっとこう栗に枝をつけて「あれ？　こうしたら何になると思う？」って言ったら、「あー、スプーンだ」っていうところから、なんかままごと遊びみたいのを始めたもんだから、今日はこれでいけると思って。「お皿みたいのない？」って言ったら、「これがお皿ね」とかって言い始めて、みんなでじゃあ、それを乗っけようとかって。すいぶんここで、ああでもない、こうでもないってやったんだけど、「もっと大きいお皿が欲しい」っていうので、じゃあ、探しに行こうって言って、山へ登り始めたら、どんどん、どんどん行ってしまって。「とにかくゆっくり歩かないと、いろんなものを見つけられないよ」って先生も言ってくれて、ストップをかけながらお皿を探したり、あと、おいしそうな実とか、そういうのに目を向けながら歩きました。
　そしたら、途中で虫を見つける子もいたし、カマキリも見つけて、ミミズも触ったかな。でね、ままごとに使うものを探すんだけど、そのときにちょっと触ってみたり、匂い嗅いでみたりっていうのも自然にできて、すごいなんか、たまたま、行き当たりばったりのテーマ設定だったんだけど、よかったなって思って。子どもの発想ってほんと面白くって、シダの枯れたやつ、さっき恐竜の歯とか髪の毛って言ったけど、こっちはレストランだったから、テーマが。そうしたら「これ、タコみたいだね」って。

スタッフ③：なるほどね。
スタッフ②：はいはい…。
遠藤先生先生：（笑）確かに。
スタッフ①：タコの足。「ああー、じゃあ、これはタコ。じゃあ、タコ集めよう」とかなったり。ちょっとぽろぽろした葉っぱは、「これはふりかけだ」とか、いろんなそういう、あと、クチナシの実はパイナップルとかって言って。あと、「トマトとかも欲し

い」とかって言ったら、ちょっと、ヤブコウジの実とか、マンリョウの実を見つけると、「これ、さくらんぼだね」とか、「トマトだね」とか言って、そうしたら、いちいち植物の名前とか、そういうのも全然関係ないじゃない？

スタッフ②：そうだよね、確かにね。

スタッフ①：

子どもなりに、この葉っぱが、お皿がいいとか、これもスプーンになるとか、木の棒がウインナーだとか、そんなことを言いながらずーっともう上へ行って、下りてくるまで、ずっとそんな感じで、すごく面白かったな。男の子なんかもうままごとのことは頭にないんだけど、虫触ったりしてるんだけど、でもふって思い出して、「じゃあ、これはご飯の豆だね」とか言ったりとか。たまに「あーっ」て、上を私が見ていると、上見て「あー、なんか実がある」って言って、ゴンズイの実とかも、先生も「あれ、これ、なんか赤いとこから黒いの出てるね」とかって。そういう実の、たまたま隣り合ったもので、この実とこの実は違うっていうのが分かったり、中から何か出てきたよとかっていうのをやりながら、ちょっとレストランをつくろうっていうところからいろんな発見ができてよかったなって、見立て遊びが面白かったですね。

そんなところで、子どもたちが「お腹すいた、お腹すいた」って言って、「じゃあ、レストランを早くつくろうよ」って言って、それもよかった。ほら、言わなかった？お腹すいたって。

スタッフ③：言った言った。（笑）

スタッフ②：あー、言ってた。

スタッフ①：（笑）うん。で、レストランって言ったら。なんかね、最後の最後、ここに下りてきたらほっとして、レストランのことがちょっと遠のいちゃった子も中にはいたんですけど、そこは先生とも協力して、最後、レストランをちゃんと完成させて。そしたら、ほかのチームの子が「お腹すいた」って来たから、「あれ、レストランやってるよ」とかって一番頑張った子が誘ったりして、めっちゃよかったですね。

　そういう意味では、発見する力がもうもともとある子たちなのかなって思って、先生に「普段どんな感じなんですか？」って聞いたら、「２歳児のときはすごい浅間山（せんげんさん）に何度も行って、だから、体が結構できてる。だけど、もう今年はあんまり行けてなくて、体験が本当に少ないんです」って言ってたんだけど、そのときの積み重ねというか、今年はあんまりだけど、２歳のときにやってたこととかがよみがえってきてるのかなって思いました。

スタッフ②：
　そうだよね。だから、結構走らせても、大地を踏みしめるっていうか、ある程度そんなよろよろするような子はいなくて。だから、そういう点ではね、やっぱりね、近くにそういう自然があった経験が生きているのかな。
スタッフ①：
　そうですね。先生も、どんどん行っちゃう子とかいるんだけど、割と慌てなくて。「あ、先行くと危ない。行くと見えなくなるよ」とか言いながら、おおらかさっていうのもすごいよかったなって思いました。
スタッフ②：
　そうだよね。だから、先生も一緒になってさ、遊んでくれるじゃないんだけども、喜んでくれたりさ、見つけたことに一緒になって「うわ、こんなの見つけたの？」とかね。
スタッフ①：そうそう。
スタッフ②：それがすごいやっぱり大事なことだなと思ってね。
スタッフ①：
　あとはついて来ない子がいるなと思って後ろを見て、「あ、何か見つけてるよ」って言って、また一緒に戻って見たりとかね、そういうこともできて。思いがけず、いないと思った生き物に出会えたのはすごいよかった。
スタッフ③：うん。バッタなんかも捕って…。

スタッフ②：あそこの木にね、カマドウマ。あれを見つけて。
スタッフ①：へえー。
スタッフ②：それで、初めて観察ケースに入れながらみんなで見て。そしたら、見方分かんないじゃんね。

スタッフ①：うん。
スタッフ②：こんなになって。（笑）
一同：（笑）
スタッフ②：だんだん分かって、「うわ、すごい大きい」とかさ。「こんなに足が長い」とかさ、そんな驚きをね。今回初めて私は観察ケースを使ったんだけどね。自分で見ても不思議だね。
スタッフ①：そうそう。ほんと、実際にカマキリなんかも、こうやって触ったことあんまりないみたいで、もう、「私も触りたい」「僕も」って言って、なんかつまみ方がね、ちょっとっていう感じの子もいたけど、やっぱつまむと分かるみたいで。ほかの子が「そこはだめだよ」って教えたりとか、そういう姿がすごい見えましたね。ミミズもこうやってさ、全部持っちゃう子がいるんだよね。だから、横から、「かわいそうだから」って言う子がいたりして、よかったんじゃないかなって。
スタッフ③：うちの班の子は虫が嫌いだったな。
スタッフ①：ああー。
スタッフ③：「なんで？」って聞いても、「虫は嫌いなの」とかなんとか言って。だから、大人があんまり虫が好きじゃないからなのかな。
スタッフ①：あー。親御さんもきっとね、どうしていいか分からない人もいるでしょうね。
スタッフ③：うん、うん。
スタッフ②：今そうなんだよね、なかなか機会がないもんね。

スタッフ①：遠藤先生、見ていていかがでしたか？
遠藤先生：そうですね。今日ね、ちょっと面白かったのが、クモがたくさんいるじゃないですか。
スタッフ①：うんうん。
遠藤先生：
　小っちゃいクモが上から糸をピーッて下ろしてきて、空中でもちゃもちゃってやってるのを見つけた男の子が、下の部分を一生懸命攻撃してて。でも、クモは上でつながってるから動かなくて、それを見て面白いなって思って。糸が見えないから、すごい不思議だったんだろうなって、下かなって思ったんでしょうね。でもね、その子、やみくもにいろいろこう、辺りをあちゃちゃーって攻撃したら、上が切れて。

一同：（笑）
遠藤先生：そう。クモはどこかへ行ってしまったんですけどね。面白いって思いました。なぜ止まってんだろうって不思議だったでしょうね、きっとね。
一同：（笑）
遠藤先生：でも、ほんと、体をよく動かしている子たちだなっていうのが、ちょっと見ただけでも感じられて、やっぱり積み重ねだなっていうふうに思いました。
スタッフ①：そうですね。ほんとに、こういうのって、なかなか数字とかに表せないじゃないですか。
遠藤先生：表せない。うん。でもね、苦もなくたくさん歩けるじゃないですか、広いから。それはなんか、自然の中に行ってしまえば、それだけそういう環境が手に入るというか。モコ保育園さんも日常の中で、園舎はたぶん狭いんだけど、もう浅間山まで行っちゃえば、ものすごい広い空間が自分のものみたいな感じで遊べるし、そんなようなところ、たくさん歩くことの意味みたいなところと組み合わせて伝えていけるといいかななんて、今日見てて思ったんですけどね、やっぱり基礎体力があるのは、集中力の源ですよね。疲れて眠くなっちゃうとたぶんいやになっちゃうと思うんですけど、今日の人たちすごい体力あって、元気でしたよね？
スタッフ②：うん、そうそう。
スタッフ③：うん。
遠藤先生：たぶんね、通常の園の生活だと、１時や１時半ぐらいにお昼寝になるので、だんだん静かにしていくような時間帯なわけなんだけど、ご飯食べたあと、元気でしたよね。
スタッフ①：元気だった。（笑）
遠藤先生：うんうん。そう。基礎体力大事で、そこを培うのに、やっぱり自然の中に歩きに行くっていうのはね、ちょっとポイントかななんて、いつも思います。
スタッフ①：そうですね。

スタッフ③：子どもに木登りやらせてたのがよかったかな。先生が最初にやってみてくれて。そしたら、今度、子どもたちが来て。

スタッフ①：そういうのも普段できないもんね。
スタッフ③：うん。
遠藤先生：ねえ。手頃な木がいっぱいあっていいですよね、ここ。公園とかね、境内の木だとなかなか登りやすくないから、小さい子たちだと。
　あと、今日、引っ張っても取れないものっていうものを発見してたような気がしていて。
スタッフ①：へえー。

遠藤先生：つるを引っ張ると、生きてるわけだから、これ、そう簡単にはちぎれない。そういうものなんだなって。あと、まだ生えてる、斜めになってた木も、すごく引っ張ったり、ビヨンビヨンやったりしてたけど、折れるわけじゃなくって、そういう跳ね返ってくる感じ。

スタッフ①：弾力性みたいな。

遠藤先生：そうそう…。その面白さで何べんも何べんもやってて。

スタッフ③：うん。

遠藤先生：あ、いいもんだなって思いました。そういう体から入るみたいな体験。

スタッフ①：そうですね。そうやって、こう、木のこう、しなやかさみたいな、生命力みたいな。そういうのもね、体感するってことですよね。

遠藤先生：そうそう。ああいう素材ってないですよね、普段の環境の中に。生きてるからこそああなってるみたいなところが感じられるとね。

スタッフ①：そうですね。

遠藤先生：こういうことなんだなみたいな、パキッといかないね、生きてるもののしなやかさ。

スタッフ②：ちょうどこの奥に、ちょうどいいつるがあってさ。あんなところにぶら下がったりさ。

カメラマン：なんか好奇心旺盛というか、すごく、物怖じしない感じとか、自然に対してスッて入り込んでいく感じをすごい感じたのと。やっぱりすごい疑問を持つなって思いました。これ何だろうとかっていうのと、あと発見。見つけることがすごい。なんか、小っちゃい実とかも、大人だったらスーッと通り過ぎてしまいそうなことも、すごく全部拾って、これ何だろう、これってどういうものなんだろうみたいな、すごい疑問を持ってる子が多いなっていうのはすごく感じて。それを見ているのが私も楽しかったっていう感じでした。

　あと「見て」って表現というか、そういうのも強い子たちだなっていうのをすごい感じて、私なんかは割とこう、引いて写真を撮っているので基本的に部外者みたいに子どもたちに思われることが多いんですけど、この人にもなんか教えてやりたいみたいな気持ちが強かったのか、アピールしてきて、なんなら「撮って」みたいに言ってくれる子もいておもしろかったです。